# CASBEE®名古屋 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016　|使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

## 1-1 建物概要

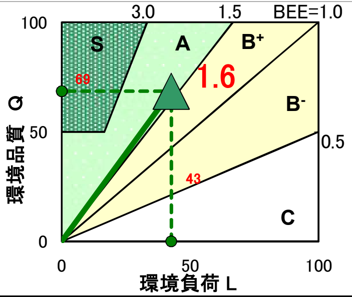
| | | | |
|---|---|---|---|
| 建物名称 | MWP | 階数 | 地上9階　地下1階 |
| 建設地 | 名古屋市中区葵三丁目2101番地、2102番地、2103番地 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 商業地域、防火地域 | 平均居住人員 | 730　人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 4,000　時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 事務所,飲食店,集会所,等 | 評価の段階 | 竣工段階評価 |
| 竣工年 | 2023年1月　　竣工 | 評価の実施日 | 2023年2月7日 |
| 敷地面積 | 1,340 ㎡ | 作成者 | |
| 建築面積 | 909 ㎡ | 確認日 | 2023年2月7日 |
| 延床面積 | 5,707 ㎡ | 確認者 | |

## 1-2 外観

## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.6 ★★★★

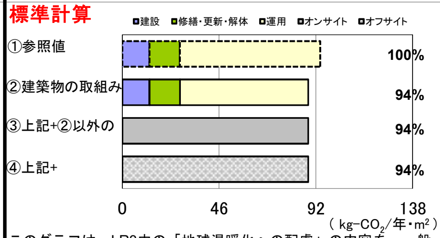
S: ★★★★★　A: ★★★★　B⁺: ★★★　B⁻: ★★　C: ★




## 2-2 ライフサイクル$CO_2$(温暖化影響チャート)

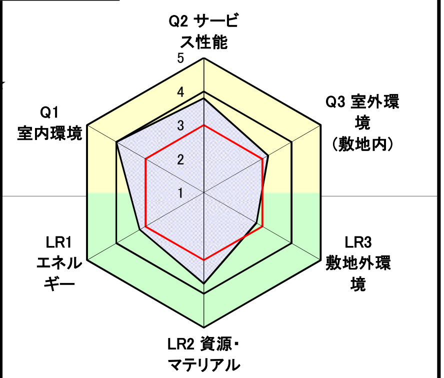
☆☆

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆




このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

## 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

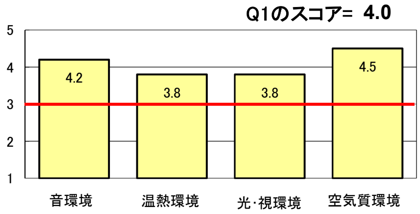



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)

### Q 環境品質　　*Q のスコア= 3.7*

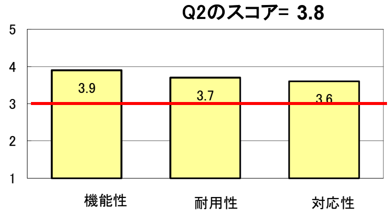
**Q1 室内環境**

Q1のスコア= 4.0



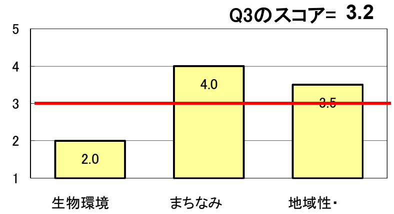

**Q2 サービス性能**

Q2のスコア= 3.8




**Q3 室外環境（敷地内）**

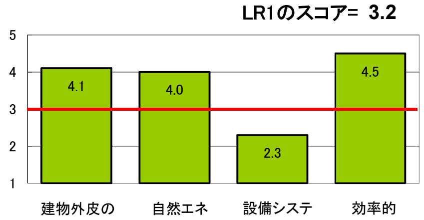
Q3のスコア= 3.2




### LR 環境負荷低減性　　*LR のスコア= 3.2*

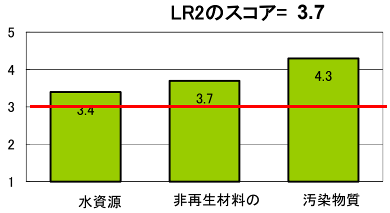
**LR1 エネルギー**

LR1のスコア= 3.2



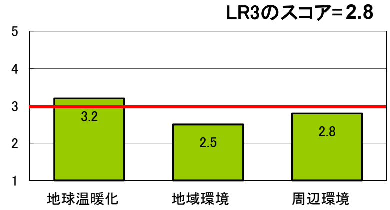

**LR2 資源・マテリアル**

LR2のスコア= 3.7




**LR3 敷地外環境**

LR3のスコア=2.8




## 3 設計上の配慮事項

**総合**

・高断熱及び日射遮蔽性を高めることで、省エネルギー化と内外の環境制御に貢献する施設を目指している。また、オフィスフロアではABWの考えを取り入れ、働く人たちがシーンに応じて常に最適な空間、光、音環境を選択し、心身ともに健康的でパフォーマンスを発揮可能な執務空間づくりを行う。

**その他**

**Q1 室内環境**

・南面に反透過なアルミパンチングパネルを設け、日射抑止や柔らかな光環境を創出。
・上下階、南北に風の抜ける風の道を設け、自然換気を誘発。
・ﾊﾟﾝﾃﾞﾐｯｸにも配慮した外気供給量一人当たり30m3/hを確保。

**Q2 サービス性能**

・ﾌﾘｰｱﾄﾞﾚｽを前提とした多彩で十分な広さのﾜｰｸﾌﾟﾚｲｽを整備。
・ABWのｵﾌｨｽにあった内装とｻｰｶｰﾃﾞｨｱﾝ照明、環境音を導入。
・直天井とルーバー天井により、開放的な執務環境を創出。
・建築基準法に定められた２５％増の耐震性を確保。

**Q3 室外環境（敷地内）**

・劇場、テナント、オフィスが一体化した地域や社会に開かれたエントランス空間。
・屋上に芝生広場を確保。
・車道に沿って高木を含む植栽を計画。自動潅水設備を設置。

**LR1 エネルギー**

・壁面ガラス型の太陽光発電により、エネルギーを創出。
・LED照明・人感センサーにより、エネルギーを削減。
・排気熱を有効活用する全熱交換器による省エネルギーの実現。
・高効率空調機採用による省エネルギーの実現。

**LR2 資源・マテリアル**

・スケルトンインフィルを徹底した再生可能な施設。

**LR3 敷地外環境**

・南面は低層部では極力窓開口をなくし、高層階では窓の外にアルミパンチングパネルを設け、公害対策を実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクル$CO_2$」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE名古屋　評価結果

## 重点項目スコア・結果シート

MWP

■使用評価マニュアル：　CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト：　CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 重点項目 | | | 評価 | 全体に対する重み係数 | 重点項目スコア |
|---|---|---|---|---|---|
| 1．温暖化対策 | | | | | 3.1 |
| LR1 | エネルギー | | 3.3 | 0.4 | |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | | 3.2 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | | 2.0 | 0.05 | |
| 2．自然共生 | | | | | 2.3 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | | 2.0 | 0.090114021 | |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 地域性のある材料の使用※1 | 無 | 0.009011402 | |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | | 3.0 | 0.04505701 | |
| 3．循環型社会 | | | | | 3.6 |
| LR2.1 | 水資源保護 | | 3.4 | 0.06 | |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | | 3.7 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制　※2 | | 3.0 | 0.01875 | |

## 結果

### 1．温暖化対策

評価点　＝ 3.1

### 2．自然共生

評価点　＝ 2.3

### 3．循環型社会

評価点　＝ 3.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$重点項目スコア＝\frac{（評価点×全体に対する重み）の総和}{全体に対する重みの総和}$$

※1　ここでは、Q3．3．1の評価する取組みのうち評価項目 Ⅰ 2）地域性のある材料の使用　又は、Q3．2において評価する取組みのうち評価項目　4）地域性のある素材による良好な景観形成　のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3．3．1の全体に対する重みに0．2を乗じたものとしている。

※2　ここでは、LR3．2．3のうち、LR3．2．3．3　交通負荷抑制　を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3．2．3の評価点とは異なるものである。